

田んぼの水生甲虫

(水そうの中にはゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、ガムシがいます)

●ゲンゴロウ (源五郎) 学名: *Cybister japonicus*



かつては田んぼの昆虫の代表格だったが、急激に減少しており、環境省のレッドリストの準絶滅危惧種になっている。

肉食性で、弱ったり死んだりした魚や水生昆虫などを食べる。

息は、背中と硬い前羽の間に空気をためて行う。ちょうど、酸素ポンペを背おってる感じ。



↑ 息つきをしているゲンゴロウ
息つきがしやすいように、飼う時は水そうに水草やとまり木などを入れておく。

↑ オスの前足は吸盤状になっている

●クロゲンゴロウ (黒源五郎) 学名: *Cybister brevis*



大きさは2-2.5cmくらい。

前羽の後ろに茶色の斑点が2つある。

右写真は幼虫。

世羅では、ゲンゴロウは見られなくなったが、クロゲンゴロウはまだいる。



●ガムシ (牙虫) 学名: *Hydrophilus acuminatus*



↑ 触角(ヒゲ)を水面に出して息つきをするガムシ

世羅では、夏に街灯などによく飛んで来ている。自然観察園内でも確認された。

幼虫は田んぼで育ち、成虫はため池などで越冬する。

息は、触角を動かして空気をおなかの下の細かな毛につけてためて行う。そのため水中ではガムシのおなかは空気で銀色に光って見える。



↑ とまり木に生えた藻を食べるガムシ。成虫は主に水草などを食べる雑食性。



← 田んぼで育つガムシの幼虫。幼虫はモノアラガイなどの巻き貝を食べる肉食性。